

弘前学院大学ティーチング・ポートフォリオ

文学部・日本語・日本文学科
坂井 任

作成日 2024年1月31日

1. 教育の責務

<p>2000年（平成12年）度から弘前学院大学文学部に採用され、本年（2024年）で24年となる。</p> <p>情報関係科目、自然科学系の一般教養科目等の、講義・演習科目を担当している。</p> <p>その他、文学部一般教育科目「キリスト教文化」、社会福祉学部「大学生のためのソーシャルスキル」を分担担当している。</p>				
2023年度担当授業				
科目名	学年	授業種別	開講学期	概要
基礎演習Ⅰ	1年	演習	前期	レポート作成のための基礎
基礎演習Ⅱ	1年	演習	後期	レポート作成法
情報の科学A	1年	演習	前期	文書作成、情報検索、表計算、プレゼンテーション、情報倫理
情報の科学B	1年	演習	後期	文書作成、表計算、プレゼンテーション
科学と現代A	1年	講義	前期	物理学
科学と現代B	1年	講義	後期	確率・統計
データ解析演習Ⅰ	2年	演習	前期	表計算
データ解析演習Ⅱ	2年	演習	後期	表計算
データベースと解析の技術	2年	演習	後期	データベース、表計算ソフトのデータベース機能
基礎数学B	2年	演習	前期	SPI
基礎数学C	2年	演習	後期	数学検定
キリスト教文化	1年	講義	後期	弘前学院の歴史（オムニバス1回分を担当）
大学生のためのソーシャルスキル	1年	講義	前期	情報社会の問題（授業1回分を担当）

2. 教育の理念

情報化社会の現代において、文系といえども基本的な情報スキルは必須である。また、近年大規模データの新しい利用技術が開発されるようになり、データリテラシーも重要になっている。これらの能力は、大学での学びに必要なだけでなく、社会に出てからも仕事に活かせるのはもちろん、社会生活を送るにも欠かせない。さらに、現代社会を支える科学への理解や、基本的な数理技能も必要である。これらの基本的素養を、いわゆる文系の学生にも齊しく身につけてもらうのが、授業の目的である。

具体的方針を、情報系の科目、自然科学系の講義科目、数理リテラシーの科目に分けて述べる。

1. 情報系の科目の場合

単に知識として身につけるだけでは不十分で、実践できなくては意味が無い。自分で何事もできるだけのスキルを獲得することが目標である。

2. 自然科学系の講義科目の場合

一つは、物理学から見る自然観の理解を目指している。

もう一つは、データサイエンスの基盤となる確率・統計的思考を身につけることを目指している。

3. 数理リテラシー（基礎数学）の科目の場合

社会生活を営むうえで、高度な数学は必要なくても、基礎的な数学力や数理的な思考は必要である。さらには、問題解決能力や物事を整理することなど、広く学問やスキルの開発に役立つと考えている。

3. 教育の方法

1. 情報系の科目の場合

授業では、文書作成・表計算・プレゼンテーションについて、ソフトの操作をまず覚え、練習問題を通じてスキルの定着を図っている。

操作はスマホで調べれば済むと思っている学生もときどきいるが、明らかに効率が悪い。与えられた問題は解けても、自身で構築するのには無理がある。操作を覚えるには、その操作がどう位置づけられているかが重要なので、なぜそう位置づけられているのかという「考え方」を説明するようにしている。

分類上は講義科目に位置づけられているが、実際には実習が中心である。自分で問題を考えさせ、少しずつ解答を示していくことで、どうすれば良かったのかを自分で考えさせるようにしている。スマホの普及により、かえって以前よりパソコンに触れる機会が少ない学生も増えたので、ギャップの解消にも配慮している。

2. 自然科学系の講義科目の場合

文化系の学生にも馴染めるように、難しい数式などは用いず、概念を理解できるよう平易な説明に努めている。細かい点はプリントを配布し補足している。

3. 数理リテラシー（基礎数学）の科目の場合

文系の学生は数学に苦手意識がある学生が多い。考え方をまず理解できるように丁寧に説明し、問題に取り組みせている。これまでの経験から、学生が苦手な問題、どこで躓きやすいかもわかっているので、それを元にアドバイスを行っている。

解説を聞いて理解するのと、自力で解けるのとは大きな差があるので、問題を考える時間を適切に取るようにしている。前回の授業内容の復習テストを毎回行い、詳しい解答も配布して、自分の間違ったところを確認できるようにしている。

4. 教育の成果

評価について、「授業評価アンケート」の結果を踏まえて記す。

1. 「学生自身の自己評価」に関して
 - 1-1. 情報系の科目では、全般に学部・全学平均値を上回る項目が多かったが、「事前学習（予習）・事後学習（復習）に取り組んでいる」の項目では下回っている項目が多かった。
 - 1-2. 自然科学系の講義科目では、「科学と現代A」で学部・全学平均値を下回り、「科学と現代B」では「この授業によく出席している」の項目で下回った。
 - 1-3. 数理リテラシー（基礎数学）の科目では、「基礎数学C」のみ「この授業によく出席している」の項目で学部・全学平均値を下回った。
2. 「授業担当者に対する評価」に関して
 - 2-1. 情報系の科目では、全般に学部・全学平均値を上回る項目が多かったが、「データ解析演習Ⅱ」で2項目、「データベースと解析の技術」で2項目下回った。
 - 2-2. 自然科学系の講義科目では、「科学と現代A」で学部・全学平均値を下回り、「科学と現代B」では「学生の質問や意見に適切に対応している」の項目で下回った。
 - 2-3. 数理リテラシー（基礎数学）の科目では、「基礎数学B」「基礎数学C」で1項目ずつ学部・全学平均値を下回ったが、全般には平均以上であった。
3. 「授業内容に対する評価」に関して
「科学と現代A」で「この授業で扱う量や難易度は適切である」「総合的にみて、この授業に満足している」の項目で学部・全学平均値を下回った。それ以外は、1項目で下回った科目はあるが、大きく下回ったものはない。

5. 教育の改善

上記の「授業アンケート」結果を踏まえて、改善すべき点を記す。

1. 情報系の科目では、科目の性質上、事前学習より事後学習が中心となる。授業で扱いきれない練習問題などを宿題にしているが、成績評価に取り入れるようなインセンティブはない。もっと復習の意義を理解させるよう努めたい。
2. 自然科学系の講義科目では、「科学と現代A」の内容が難しいと感じた学生が多かったのだと思われる。説明や難しい点は補助的に用いるプリントの内容を充実させるようにしたい。
3. 数理リテラシー（基礎数学）の科目では、授業アンケートでは特に評価が低い項目はなかったが、学生自身が達成感を感じられるように工夫したい。

6. 教育の目標

短期的には、上記の改善点を埋め、学生の満足度を上げることである。

これだけのことができるようになった、以前より視野が広がったというような、学生が達成感を得られ、成長を感じられるようにすることが目標である。そのために、学生に合ったコンテンツとは何かを不断に追究していきたい。

長期的には、各授業で進行を記録する表をつくっているもので、これを基に上手く行かなかったところや時間配分を次年度の授業で改善し、内容のみならず進行も工夫していきたい。

【資料】

1. シラバス
2. 授業評価アンケート
3. 授業進行表
4. 復習テストとその解答（基礎数学）
5. 復習テスト結果（基礎数学）
6. 授業プリント（自然科学系講義科目）